

事例 24 地域での普及・安全指導に資するチェーンソー伐木造材研修

(森林技術総合研修所 林業機械化センター)



- ・群馬県沼田市 根利山国有林
- ・チェーンソー伐木造材(スキルアップ)研修
(令和7(2025)年7月)



- ・群馬県沼田市 根利赤城山第2国有林
- ・チェーンソー伐木造材(安全指導)研修
(令和7(2025)年6月)

林業の現場では、足場の悪い山の中でチェーンソーを用いて重量物である樹木を伐倒するなど、危険を伴う作業が多いとともに、労働負荷が高いこともあり、労働災害の発生率が他産業に比べて高い状況です。労働災害の多くは安全確保のための基本的な作業手順を励行していないことに起因し、死亡災害の多くはチェーンソーによる伐木作業時に発生しています。

このため、林業機械化センターでは、事業体等へ安全な伐木等作業を普及指導できる職員の育成を目的に、チェーンソー伐木造材に関する研修を実施しています。令和7(2025)年度は、「基礎」「スキルアップ」など5コースを実施し、地方自治体や森林管理局・署等の職員延べ53名が受講しました。

研修に当たっては、関係法令や振動障害予防に関する講義を始め、伐木造材・かかり木処理・目立て等の実習、災害事例・安全指導事例に関するディスカッション等、現場での普及指導に直結するような実践的な内容としています。

同センターでは、引き続き、職員等が法令等を正しく理解し、知識や技術を習得することで、それぞれの地域での確に普及・安全指導ができるよう、実践的な研修に取り組んでいきます。